

## 授業公開

### 1. 企画趣旨・目的

教育の質向上を目指す諸活動の一環として、例年実施されている教員相互の授業公開を令和 4 年度も実施した。

教員相互で授業を見学することにより、各教員の授業の改善・向上を図るとともに、本学のディプロマポリシーとの関連を明確にし、指導と評価の一体化を目指す機会とすることを目的とする。学生が身につけるべき三つの資質・能力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」と、第四次教育体制において新全学ディプロマポリシーに謳われる教育評価の三要素「対自己基礎力（リテラシー）」「対人基礎力」「対課題基礎力」の対照マトリクスは以下の通りである。

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性
<b>わたし</b> (リテラシー) (対自己基礎力)	① 基礎学力・教養	④ 論理的思考力	⑦ 主体的行動
<b>こころ</b> (対人基礎力)	② コミュニケーション力	⑤ 多様な価値観の理解	⑧ 連携・協働力
<b>社会</b> (対課題基礎力)	③ 情報活用能力	⑥ 探求力	⑨ 実践力

第四次教育体制改革課題検討委員会「対照マトリクス参考資料から委員が①～⑨を抽出

今回の授業公開では、従来の実施形態を継続しつつ、上記マトリクスの 9 観点を授業見学の視点として用いたのが新たな試みであった。見学した授業では①～⑨のキーワードのうち、どの資質・能力が重点的に教えられていると思ったか見学者に選択してもらい、自由記述で選択理由を尋ねた。本学のディプロマポリシーと学生の学びとの関連を意識しながら授業公開・見学に臨み記録することで、4 年間で学生が何を身につけて社会に巣立っていくのかが可視化されやすく、科目同士の関連や到達度に配慮した授業につながるのではないかと考えた。

### 2. 実施概要

(1) 見学期間（事前に授業担当者と交渉することで期間外の参加も可能）

①2022 年 11 月 28 日（月）～12 月 3 日（土）

健康栄養・心理・文芸文化・社会情報デザイン・生活情報・メディアコミュニケーション

②2022 年 12 月 5 日（月）～12 月 10 日（土）

食物栄養・食品開発・人間福祉・幼児教育・児童教育・センター等

(2) 見学対象科目 原則、すべての授業科目が対象。

\* 「コミュニケーション演習」と「英語コミュニケーション応用」は見学対象外。

### 3. 見学記録の結果

#### 参観者数について

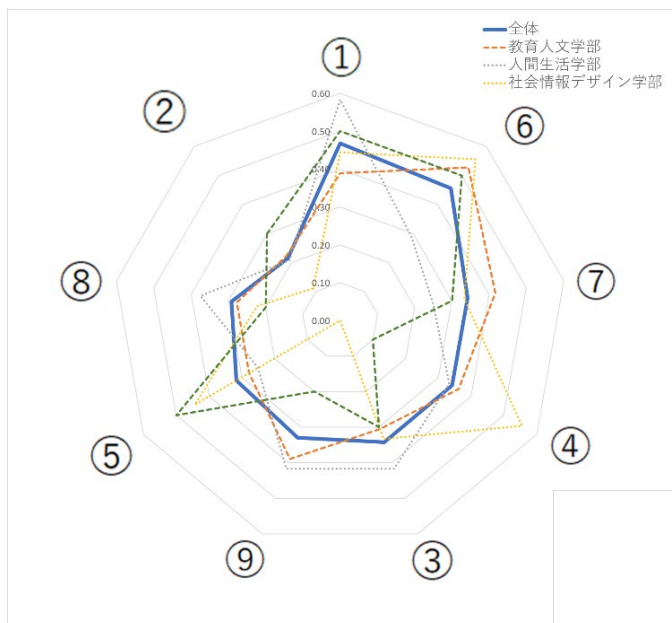
のべ 80 名の参観者数であり、昨年度より 4 名増加したが、学科によっては極端に少ない傾向がみられた。

授業公開の時期や期間について、実施期間の延長、前期と後期もしくは通年公開の要望が複数寄せられた。

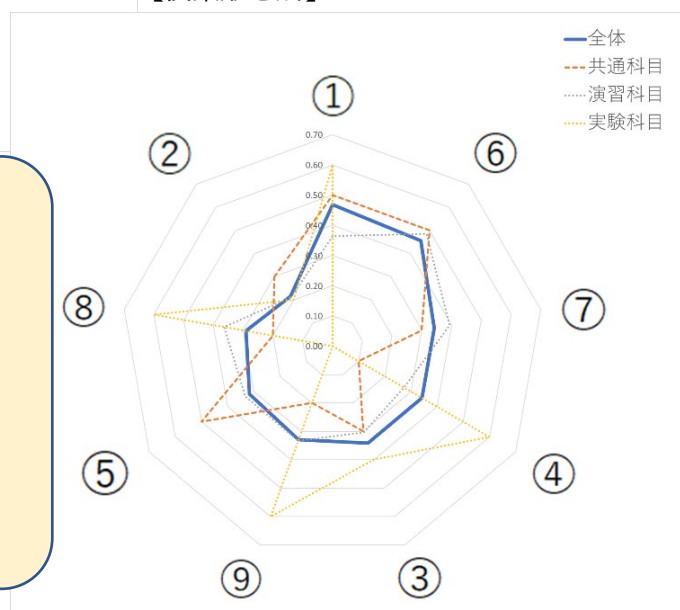
#### ディプロマポリシー（9 観点）と授業内容の関連について

1) 重点的に指導されていると思った資質・能力（3つ選択）について、学部別および授業形態別（内訳：演習 33 件、講義 40 件、実験・実習 5 件）に示す。今回の授業公開で参観された授業では、⑧と⑨の観点が他と比較して扱われていないように見える。授業形態の内訳から、連携・協働やコミュニケーションが扱われにくい講義に参観授業が偏っていたとは言えない。このことから、例えば、短時間でも学生同士が意見交換できる時間を設ける、グループワーク等による個人の思考の効果的なクラス内共有を授業に組み込むことを提案する。

#### 【学部等別】

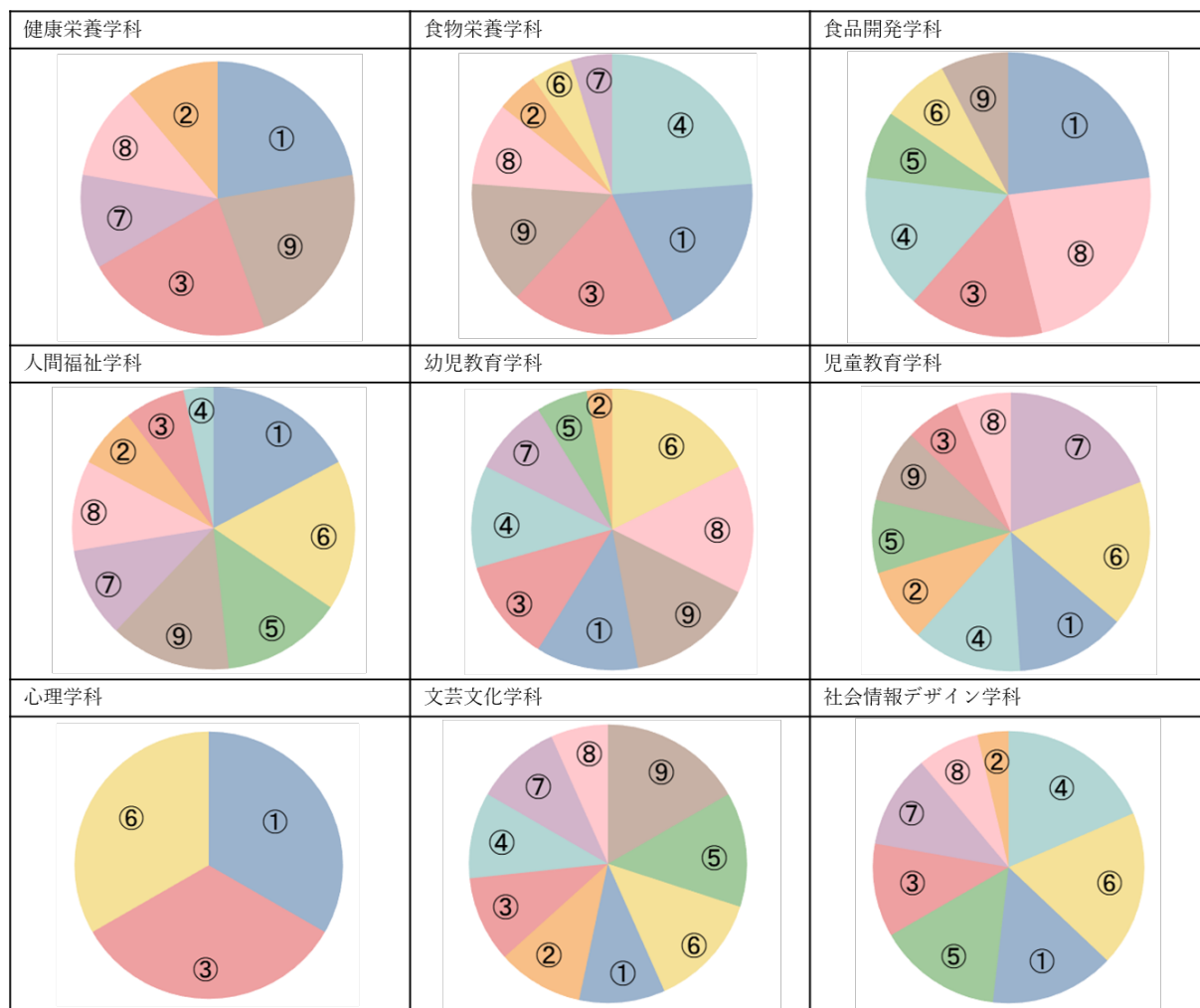


#### 【授業形態別】



- ① 基礎学力・教養【知識・技能】
- ② コミュニケーション力【知識・技能】
- ③ 情報活用能力・課題発見力【知識・技能】
- ④ 論理的思考力【思考力・判断力・表現力】
- ⑤ 多様な価値観の理解【思考力・判断力・表現力】
- ⑥ 探求力【思考力・判断力・表現力】
- ⑦ 主体的行動【主体性・多様性・協働性】
- ⑧ 連携・協働力【主体性・多様性・協働性】
- ⑨ 実践力【主体性・多様性・協働性】

2) 重点的に指導されていると思った資質・能力 (3つ選択) について、学科別の円グラフを示す。  
 学科の特色と扱いやすい/扱いにくい観点は関連が深いのが、講義・演習・実験・実習を通して9観点をバランスよく学生に提供することが教育の質の向上につながり、ひいては社会の発展に貢献できる学生を育てることにつながる。



#### 4. まとめ

一度の授業見学から各学科の指導傾向を正確に把握することはできないが、学科教員同士で授業についての対話が促進され、学科のカリキュラムポリシーを実際の授業と結びつけて考えるきっかけになると良い。

アンケートには『社会課題に取り組むためには、様々な領域の連携や協業が必要なことは誰もが理解している。授業公開・見学の拡大を含めて、連携や協業の仕組みの整備や教員の意識改革が必要ではないか。「面倒見の良さ」「明るい雰囲気」は本学の重要な提供価値であるが、「領域間連携」もその一つになってほしい。』との意見がみられた。領域間連携を広げていくことは、社会における諸課題をとらえ、専門的な知識・技能を活用しながら、持続可能な社会の実現に貢献する学生を育てることにつながるのではないか。

今回、トライアルとして導入された「観点を持った授業公開・見学」は、教員それぞれが担当する科目のシラバスの振り返りや今後の作成に生かせる可能性がある。また、今後、明示することが求められている科目ループリック作成の一助となることが期待される。教員が何を教えたかではなく、学生は授業を受けることで何ができるようになり、何を身につけたのかが重要である。授業公開をきっかけとして互いに良い授業実践から学び、領域間連携が進むだけでなく、学生が本学に入学してから卒業するまでに身につける資質・能力を意識しながら毎時間の授業に取り組めると良い。今回の授業見学では、重点的に指導されていると思われる資質・能力について質問したが、学生の学びを可視化するためにはさらなるデータの蓄積が不可欠である。授業見学に参加した教職員から要望が寄せられたように、FD 委員担当からも、時期を限定せず前期・後期いつでも授業を公開することを提案したい。授業見学を義務的・形式的なものではなく、より創造的な活動としていくことは、学生・教職員どちらにとってもプラスになるだろう。

以上